

図1 兵庫県南部地震の断層モデル（上）と神戸大学(KBU)での合成波形と観測の比較（左下），および合成波形と観測波形の応答スペクトル（右下）[5]



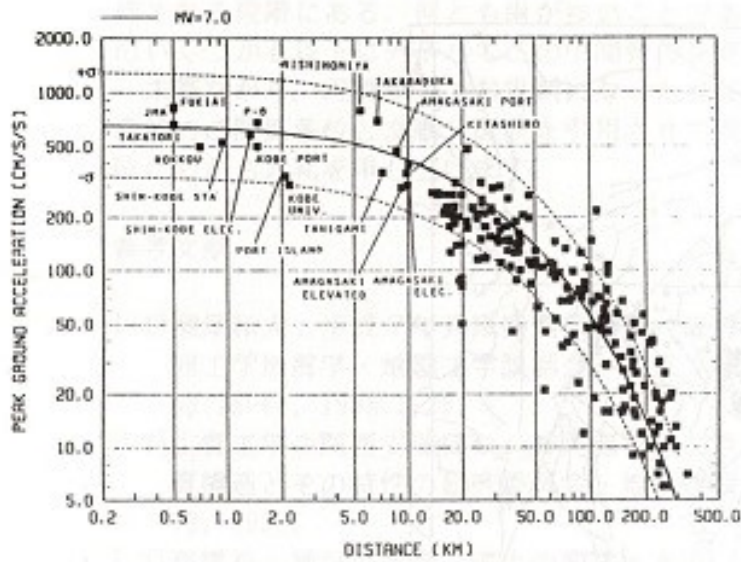


図2 断層からの距離と観測された最大加速度の関係 (実線は福島・田中(1992)による日本の平均的地盤におけるモーメントマグニチュード7.0の地震に対する距離減衰式、点線はその標準偏差 $\sigma=1$ の範囲を示す) [5]

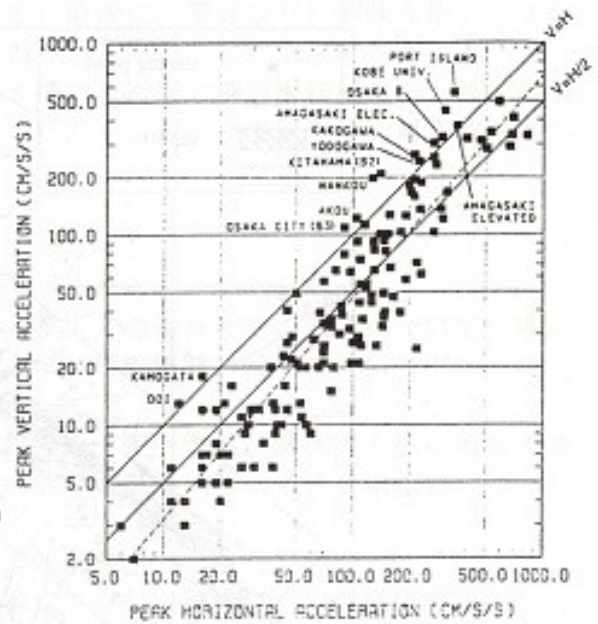


図3 観測された水平動の最大加速度と上下動の最大加速度の関係 [5]

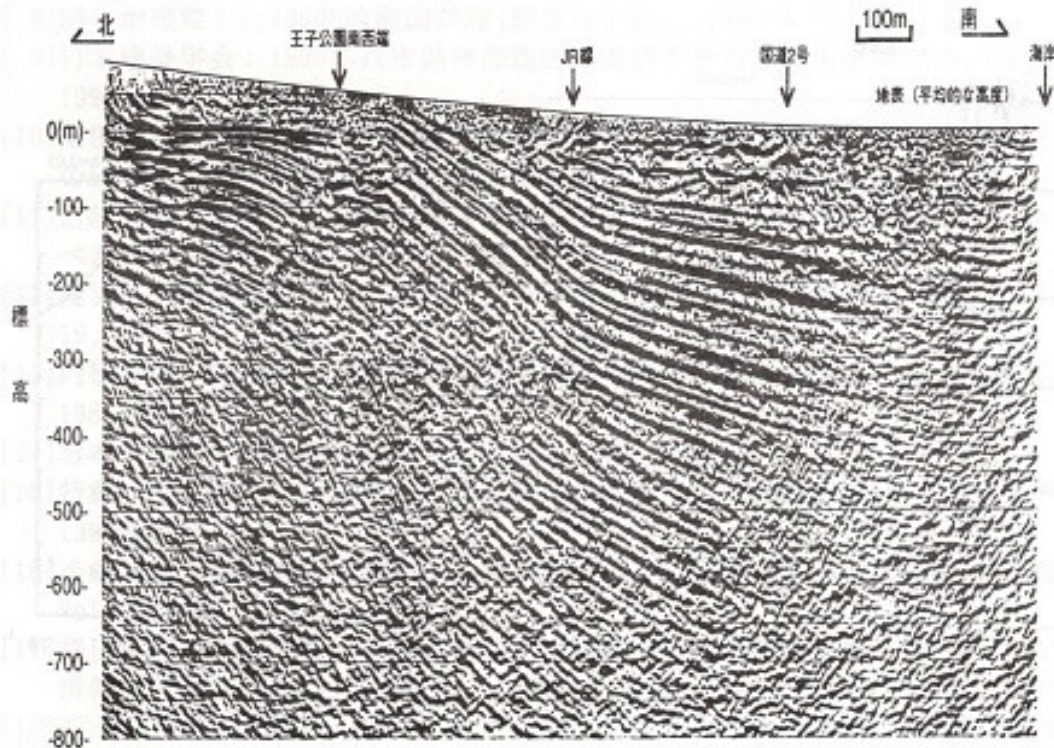
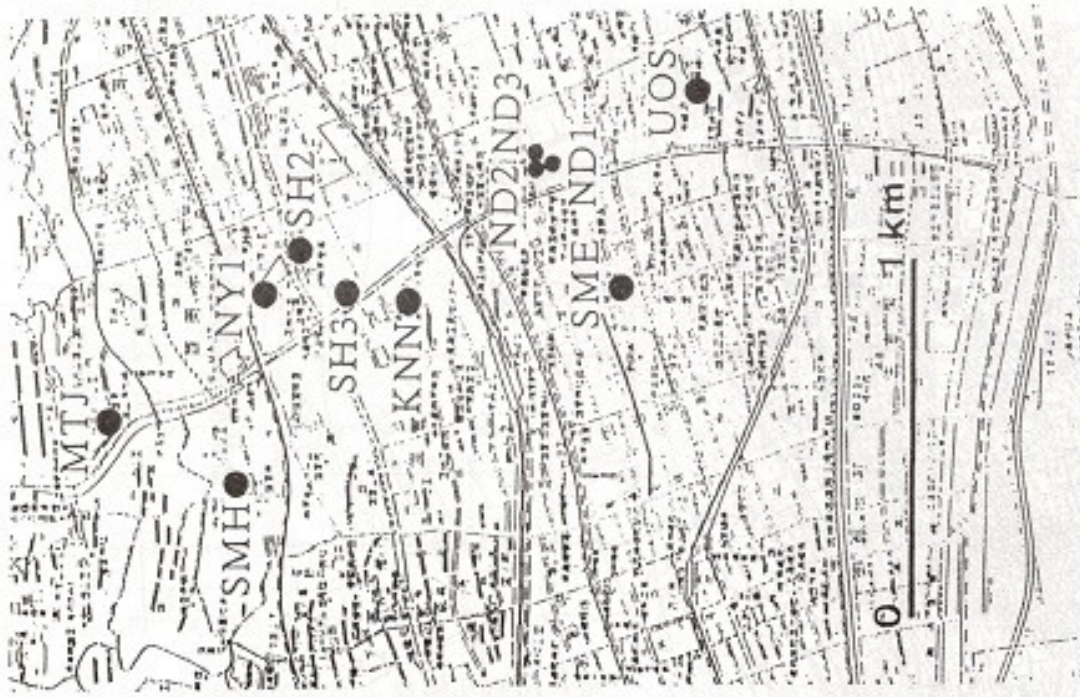
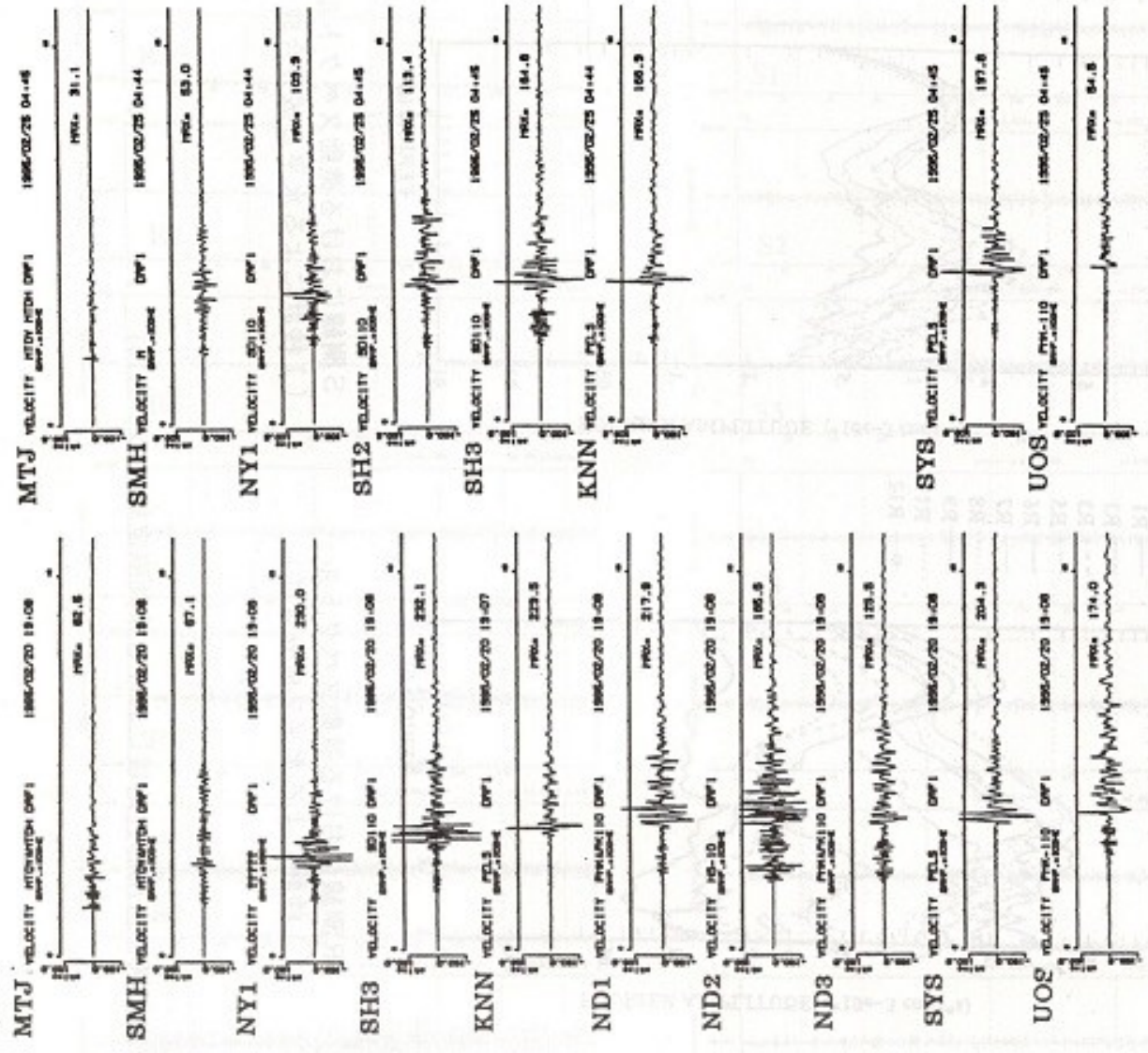


図4 神戸臨浜第2測線における反射法マイグレーション処理後の深度断面図 [6]





地震観測点配置図



1995/02/20/19:08 N S 成分の記録

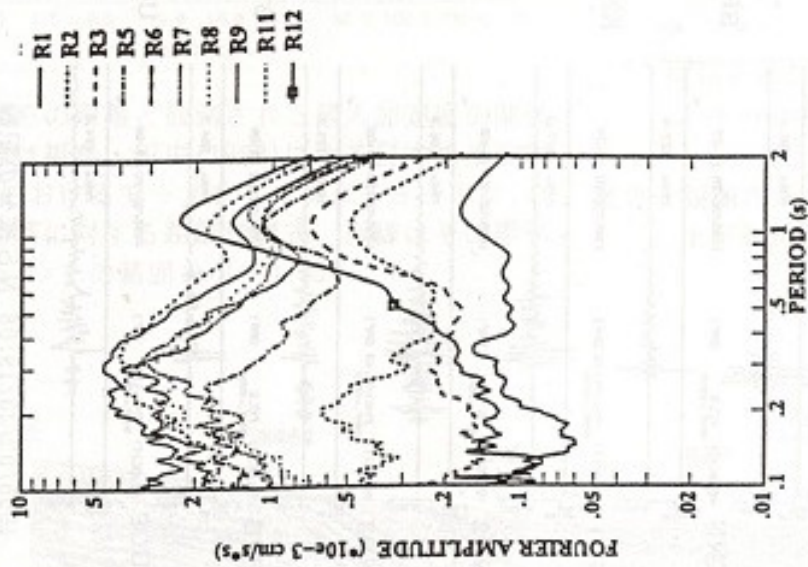
1995/02/25/04:44 N S 成分の記録

図5 神戸住吉での南北縦断リニアアレイによる地震観測記録の一例[5]

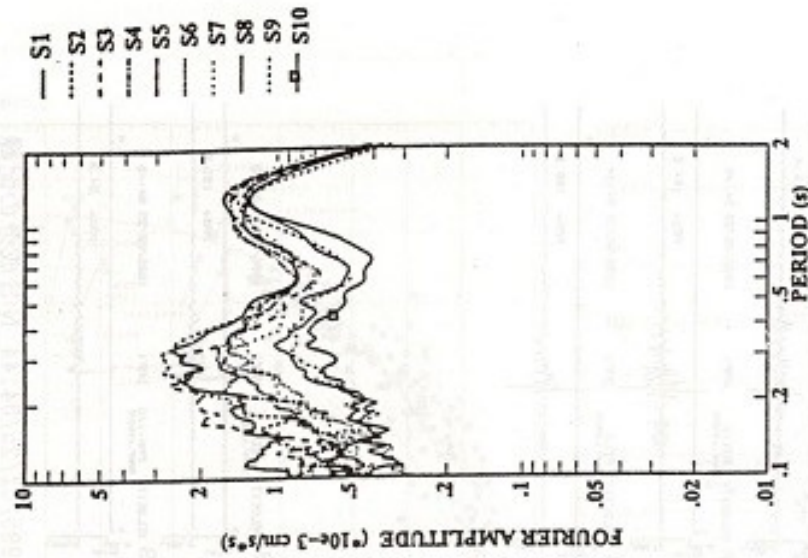




微動測定点分布図



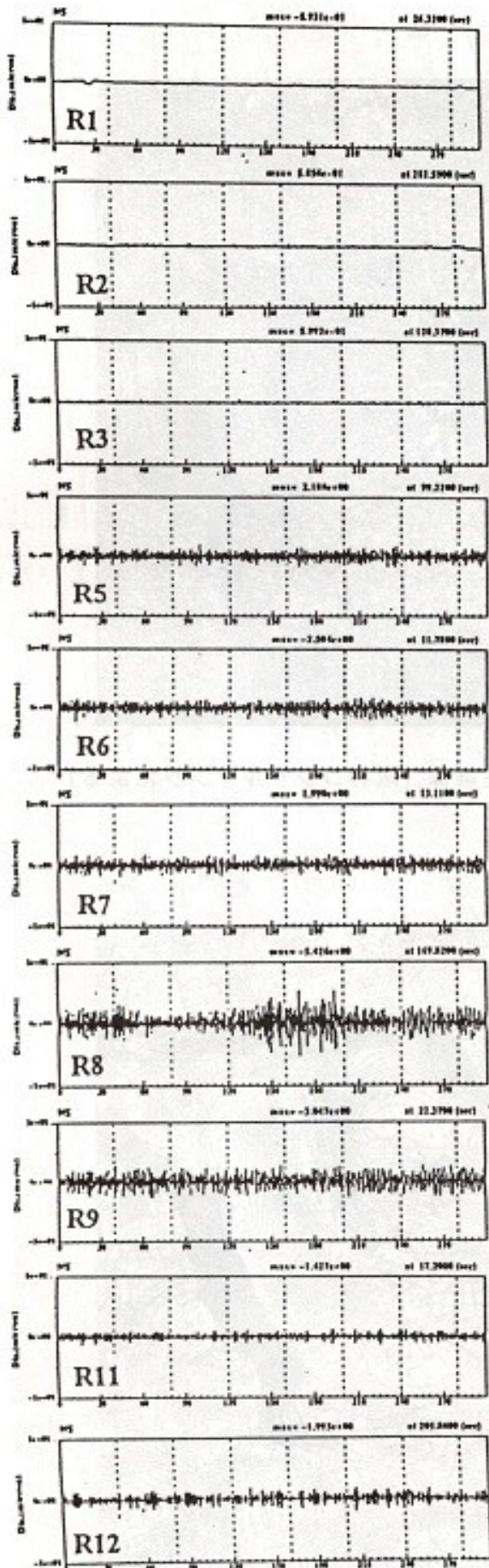
R測線における微動スペクトル  
(1秒計による水平2成分合成)



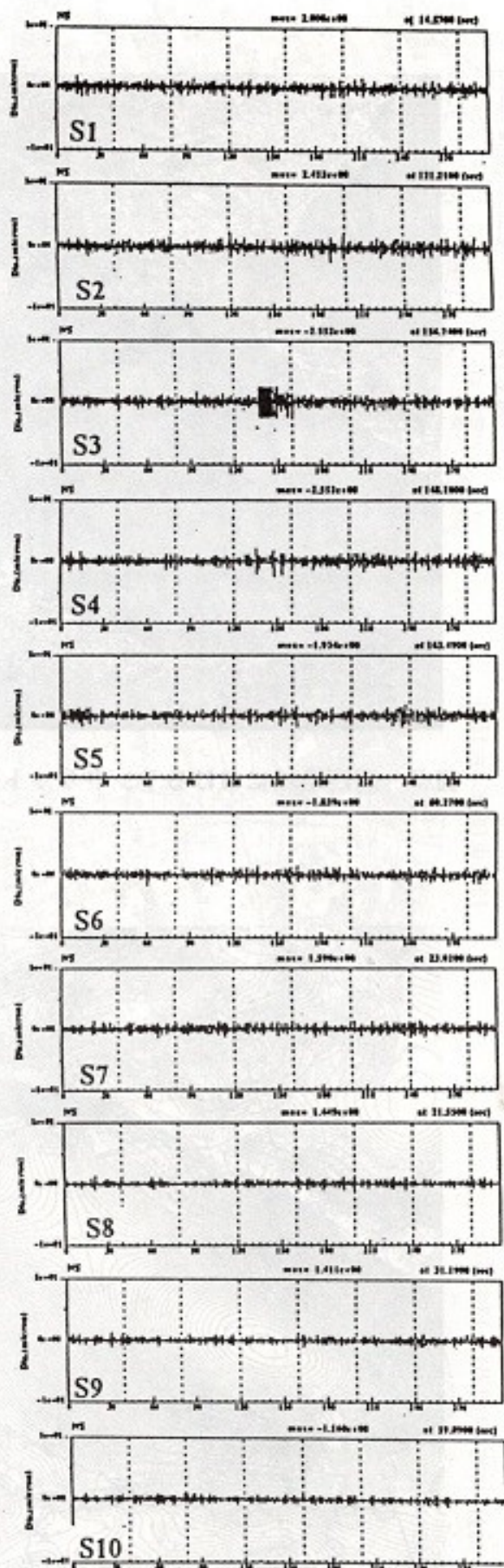
S測線における微動スペクトル  
(1秒計による水平2成分合成)

図6 神戸市東灘区住吉川周辺地域における微動測定結果の一例[5]





R測線における微動記録の一例  
(1秒計, 変位記録, NS成分)



S測線における微動記録の一例  
(1秒計, 変位記録, NS成分)